

ご利用ください！ 朝倉・福富緑地

10月1日(火)から、野球場、多目的芝生広場の使用を開始します。本緑地にはゴムチップ舗装の園路も整備され、ウォーキングコースとしてお楽しみいただけます。

予約を要する施設 野球場、多目的芝生広場

予約開始日 9月1日(日)

申込先 渡良瀬グリーンプラザ

☎ 401787



市街地整備課

☎ 21181・FAX 211946

✉ kouen@city.ashikaga.lg.jp



愛称を募集します！

利用者にわかりやすく、皆さんに親しみを持ってもらえるような愛称をお待ちしています。

特典 最優秀作品賞1点に『ユナイテッド・シネマギフトカード』5千円分と『JA足利農産物直売所共通お買い物券』5千円分を贈呈

応募方法 9月10日(火)(必着)までに応募用紙に愛称と必要事項を書いて同課へ持参(本庁舎5階)、ファクス、Eメールまたは郵送(〒326-8601足利市役所市街地整備課あて)

※応募用紙は同課または市ホームページから入手可。

新たにやってきました！ 地域おこし協力隊

映像のまち推進課・☎ 22260

映像のまち構想を推進する隊員

中村広菜さん (27歳)

出身地

東京都足立区

以前は

建築会社事務



なぜ足利に 何度か遊びに来ていて、四季の移ろいによる足利のまちなみが好きになりました。昨年12月の『今日から俺は!!』のロケ地バスツアーに参加したことで、暮らしてみたいと思いついに移住を決めました。

活動の目標 1ターンという立場から体験したことを、市に還元できるような活動をしていきたいです。

お知らせ

秋の交通安全

市民総ぐるみ運動

市民生活課・☎ 2190

運動の期間

9月21日(土)～30日(月)

運動の重点

▽子どもと高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止

故防止

▽夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止

▽全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

▽飲酒運転の根絶
統一行動日

▽21日(土) 運動周知日

▽25日(水) シートベルト、チャイルドシート着用強化の日

▽27日(金) 『子どもや高齢者に優しい3S運動』の推進強化の日、原則ハイビームの徹底強化の日

▽28日(土) 歩行者・自転車交通事故防止強化の日、飲酒運転根絶強化の日

▽30日(月) 交通事故ゼロを目指す日(全国統一)

★家庭、学校、職場、地域などでの交通安全運動へのご協力をお願いします。

完成しました!
足利学校・鏝阿寺周辺地区の
景観形成ガイドライン

都市計画課・☎2167

5月号に掲載した同地区の景観重点地区指定について、ガイドラインを策定しました。歴史的なまちなみを守り育てるため、屋根や外壁の形態、色彩、仕上げ材などの項目においてわかりやすく解説しています。詳しくは、同課または市ホームページでご確認ください。

●好ましい景観形成イメージ



◀窓枠の素材の一例



▶外壁素材の一例

市民生活課・☎2186
生活性の向上と安定運行のため、ダイヤなどを改正します。
改正日 10月1日(火)
主な変更点
▽小俣線、松田線(一部区間)
||自由降車から自由乗降へ
▽名草線(一部区間)

※詳しくは、生活路線バス車内や各公民館などで配布している時刻表、市ホームページでご確認ください。



生活路線バスの
ダイヤなどを一部改正

交通安全市民大会
日時 9月28日(土)／午前10時
場所 市民会館大ホール
||自由降車区間を延長
▽御厨線
||運行車両をワゴン車から小型ノンステップバスへ
運賃
▽一般||200円↓210円
▽障害者手帳などを提示した方
||無料↓100円

至誠
通天
市長コラム
No.069
和泉 聡

入るを量りて出ざるを制す

少し前、子育て中の10人ほどのお母さんと、意見交換する機会がありました。合間に雑談をしていると、あるお母さんが次のような話をしてくれました。

「中学生の娘がスイミングスクールに通っているが、小学生の息子も行きたいと言いつ出した。今のうちの収入では、二人を行かせることはできないので、かわいそうだが娘をやめさせて、息子を行かせることにした」。

私は思わず「とてもいい話をしていた良かったです」とお礼を述べたうえで続けました。「足利市の財政も、皆さんの家計と同じなのです。収入である税収が増えなければ、何か新しいことをする場合、今までやってきた何かをやめなければいけない。でなければ、家計が破綻するのと同じように足利市の財政も破綻します。皆さんが家計を守るのと同じように、私は市長として

足利市の『家計』を守らなければいけないのです」。

儒教の経書のひとつ『礼記』に「入るを量りて出ざるを制す」という言葉があるのを最近知りました。収入を計算して、それに見合った支出をしていく、という意味です。自分の家計であれば、スイミングスクールの例のように、誰もがこれが大事な原則であることを実感し、何かを我慢しようとする。

しかし、まちのことにすると、あれも新しくして欲しい、これも補助して欲しいと市に寄せられる要望には際限がありません。この違いはなぜか。家計は自分のお金で把握できますが、まちの財政は自分のお金ではないだけに実感を持つのが難しい。そのことに尽きると思います。

我が家の家計を実感するのと同じように、まちの家計に関心を持つて考える。まち全体がそうした想像力を持てるか否か。人口減少という難しい時代をこの国が乗り切れるかどうかは、そんな想像力の有無にかかっているのかもしれない。